

イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

今村豊

目 的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を、漁業関係者に漁海況情報として情報提供を行い、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会を開催し、スルメイカ、アカイカに関する前漁期の状況、本県漁期前の情報を発信した。

2. 漁獲動向調査

日本海主要港（小泊、下前、鯨ヶ沢、深浦）、津軽海峡主要港（大畑）、太平洋主要港（白糠、八戸）におけるイカ類の月別漁獲量調査を行い、漁獲状況の基礎資料とした。

結 果

1. 学習会の開催

平成27年4月23日に八戸市で中型イカ釣り漁船漁業者を対象に学習会を開催し、操業船の漁獲結果から推定した前漁期の状況、資源の状況等について説明した。また、5月21日に東通村（東通村連合研究会）、6月5日に泊漁業協同組合、6月23日に八戸市（三八漁業士会）において、小型漁船漁業者を対象とする学習会を開催し、スルメイカの前年の漁況、（独）水研センターの調査結果、本県の漁況について説明した。

2. 漁獲動向調査

(1) 近海スルメイカ

2015年度の近海スルメイカの水揚動向について、主要港全体で見ると、水揚げ量は4,522トンで、前年比90%、近10年平均比54%であった。また、CPUEは322.5kg/隻で、前年比80%、近10年平均比63%であった。

海域別にみると、日本海（小泊・下前・鯨ヶ沢・深浦港）の水揚量は618トンで、前年比78%、近10年平均比33%であった。また、CPUEは338.2kg/隻で、前年比78%、近10年平均比64%であった。大畑港の水揚量は1,152トンで、前年比99%、近10年平均比77%であった。また、CPUEは309.6kg/隻で、前年比84%、近10年平均比66%であった。白糠港の水揚量は734トンで、前年比74%、近10年平均比53%であった。また、CPUEは171.6kg/隻で、前年比67%、近10年平均比55%であった。八戸港の水揚量は2,018トンで、前年比98%、近10年平均比57%であった。また、CPUEは480.6kg/隻で、前年比81%、近10年平均比68%であった。

(2) 船凍スルメイカ

最近5年間（2010～2014年）の動向をみると、延べ航海回数（水揚回数）は168回から228回で、平均199回となっている。2015年は128回で、前年比77%、近5年平均比64%となった。また、同期間の八戸港における船凍スルメイカの年間水揚量は12,431トンから16,701トンで、平均14,188トンとなっている。2015年度は9,548トンで、前年比74%、近5年平均比67%となった。1航海当りの水揚量は64トンから77トンで、平均72トンとなっている。2015年度は75トンで、前年比96%、近5年平均比104%であった。

発表誌：平成27年度イカ類漁場開発調査資料第41号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 平成28年6月